

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 2 月 26 日
東京電力株式会社

< 1 . 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (2/26 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	14.5	106.8 kPa abs	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 0.0 m ³ /h	23.8	2.79 kPa g	A系： 0.03 vol%
		給水系：約 4.5 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.5 m ³ /h	21.9	0.22 kPa g	A系： 0.09 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.08 vol%

* : 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

- H26/2/25 10:15 5号機残留熱除去系B系のサブプレッションチェンバー側吸込ストレナーの健全性確認を行うため、残留熱除去系B系については原子炉停止時冷却モードを停止。16:12 確認作業が終了したことから、残留熱除去系B系の原子炉停止時冷却モードを起動。運転再開後の当該冷却系の運転状態について、異常なし。なお、運転再開後の原子炉水温度は、33.5℃(16:50 時点)であり、運転上の制限値 100℃に対して十分余裕があることを確認。
- H26/2/27 2号機について、今後の作業や工事において、炉心スプレイ系を停止して給水系で全量注水する対応が必要になることから、事前に給水系の全量注水試験を実施し、原子炉冷却状態への影響を確認するため、原子炉注水量総量(4.5m³/h)を維持しながら、段階的に炉心スプレイ系から給水系へ乗せ替える操作を実施していたが、試験が終了したことから、炉心スプレイ系の注水流量を 0.0m³/h から 2.5m³/h へ、給水系の注水流量を 4.5m³/h から 2.0m³/h へ、変更予定。

< 2 . 使用済燃料プールの状況 > (2/26 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	11.0
2号機	循環冷却システム	運転中	10.2
3号機	循環冷却システム	運転中	8.7
4号機	循環冷却システム	運転中	13.8

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルヘッドラジンの注入を適宜実施。

- H25/11/18 15:18～ 4号機使用済燃料プールから燃料を取り出す作業を実施中。
- H26/2/24 10:33 6号機補機冷却海水系を全台停止することに伴い、使用済燃料プール冷却系を停止。使用済燃料プール冷却系停止時の使用済燃料プール水温度は 16.7℃。12:41、残留熱除去系A系による非常時熱負荷運転(使用済燃料プール冷却)を開始。13:10 の使用済燃料プール温度は 17.3℃。使用済燃料プール冷却系停止時(～2/28)における使用済燃料プール水の温度上昇率評価値は 0.4℃/h。その後、6号機残留熱除去系A系(非常時熱負荷運転中)の系統水の一部が圧力抑制室に流れていることを確認したことから、19:08に残留熱除去系A系を停止し、B系の起動準備。残留熱除去系A系からB系への切り替えに伴い、漏えい箇所を調査したところ、残留熱除去系ポンプ吸込ライン(A系、B系共通ライン)にある安全弁から系統水の一部が圧力抑制室に流れている可能性が高いことから、B系の起動は実施せず。
- H26/2/25 1:28 残留熱除去系A系による非常時熱負荷運転(使用済燃料プール冷却)を再開。再開時の使用済燃料プール水温度は 19.5℃。15:52、補機冷却海水系の復旧が終了し、使用済燃料プール冷却系の運転に切り替える準備が整ったため、残留熱除去系A系による非常時熱負荷運転を停止。残留熱除去系A系による非常時熱負荷運転停止時の使用済燃料プール水温度は 19.0℃。16:35 使用済燃料プール冷却系の運転を再開。運転再開後の当該冷却系の運転状態について、異常なし。なお、使用済燃料プール冷却系の運転再開後の使用済燃料プール水温度は、18.3℃(16:55 時点)であり、運転上の制限値 65℃に対して十分余裕があることを確認。

- ・H26/2/26 3号機使用済燃料プール代替冷却系の二次系冷却塔のろ過水による散布水停止の影響調査について、冷却塔A系のファンベルトに緩みが確認されたため開始を順延していたが、冷却塔A系のファンベルト調整が終了したことから14:00 冷却塔をB系からA系へ切替えて散布水停止の影響調査を開始。

< 3 . タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	2/22 10:37 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設（雑固体廃棄物 減容処理建屋 [高温焼却炉建屋]）	1/24 14:37 ~ 移送実施中

< 4 . 水処理設備および貯蔵設備の状況 > （2/26 11:00 時点）

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	運転中 ^{*1}	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中 ^{*2}

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器（HIC）交換等を適宜実施。

- ・H26/2/26 12:21 汚染水処理設備にて処理した廃液を用いた試験（ホット試験）実施中の多核種除去設備（ALPS）において、インバータ故障警報が発生し、3系統（A系、B系、C系）あるうちの1系統（A系）のブースターポンプ No.2 が停止。これに伴い、A系が循環待機運転に移行。現場状況等を確認中。なお、同設備で試験運転を行っているB系には異常はなく、また、C系については、作業のため停止中。

* ブースターポンプ：鉄共沈処理（有機物の除去、 α 核種の除去）や炭酸塩沈殿処理などをした水を吸着塔へ送るポンプ

< 5 . その他 >

- ・H26/1/29～ 凍結管を設置するための削孔については、堀りあがった温度測定用の孔にカメラを挿入して、トレンチ内部状況を再度、慎重に確認したうえで削孔開始することとしていたが、トレンチ内部の状況が確認できたことから、凍結管を設置するための削孔を実施中。
- ・H26/2/25 15:30 頃 ふれあい交差点近傍の給油所において、作業員がドラム缶から給油器へガソリンを移送した後に、ポンプに付着したガソリンの拭き取りをしていたところ発火し、作業員が着用していたカバーオール前面の一部に引火。作業員に火傷等のけがおよび汚染はない。16:53、消防署へ連絡。
19:30 富岡消防より火災であると判断。
- ・H26/2/26 1号機原子炉建屋3・4階について、被ばく線量低減に配慮した上で、「シェル壁・プール壁」を中心にビデオカメラの撮影を実施する状況調査を実施。

【H4エリアタンク等からの水の漏えい関連】

< トピックス >

- ・H25/12/10 10:10～ 汚染水拡散の防止策として、H4エリア周辺に設置したウェルポイントから地下水の汲み上げを再開。

< タンクエリアパトロール実績（2/25） >

- ・高線量当量率箇所（ + 線（70 μ m線量当量率））は確認されず。
- ・堰床部に雨水が溜まった箇所については、雨水による遮へい効果により線量当量率は低い状態となっている。
- ・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと（漏えい確認ができない堰内溜まり水内を除く）を確認。
- ・汚染水タンク水位計による常時監視で、タンク水位に異常がないことを確認。

< H4エリア周辺のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況】

<トピックス>

- ・1,2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は2/26 0:00 時点で約 8,372m³ *集水ピット(南)およびウェルポイントの総量
- ・1~4号機建屋に隣接している井戸(サブドレンピット)の浄化試験をした結果、ピット内の溜まり水から放射性物質が検出されており、その流入経路としてフォールアウトの可能性があることから、新たに1~4号機建屋周辺に観測井を設置し、フォールアウトの影響について確認することとしている。
水質観測井(1T-6)および新設サブドレン(N1, N2, N6~8)について、ストロンチウムの分析を実施。

[サブドレン観測井1T-6:平成 25 年 12 月 2日採取分]

- ・セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:0.82 Bq/L)(お知らせ済み)
- ・セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:0.84 Bq/L)(お知らせ済み)
- ・全ベータ:13,000 Bq/L(お知らせ済み)
- ・トリチウム:3,300 Bq/L(お知らせ済み)
- ・ストロンチウム 90:8,700 Bq/L

[サブドレンN1:平成 25 年 12 月 3日採取分]

- ・セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:0.97 Bq/L)(お知らせ済み)
- ・セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:0.97 Bq/L)(お知らせ済み)
- ・全ベータ:検出限界値未満(検出限界値:12 Bq/L)(お知らせ済み)
- ・トリチウム:36 Bq/L(お知らせ済み)
- ・ストロンチウム 90:検出限界値未満(検出限界値:0.47 Bq/L)

[サブドレンN2:平成 25 年 12 月 18 日採取分]

- ・セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:0.66 Bq/L)(お知らせ済み)
- ・セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:0.71 Bq/L)(お知らせ済み)
- ・全ベータ:検出限界値未満(検出限界値:11 Bq/L)(お知らせ済み)
- ・トリチウム:110 Bq/L(お知らせ済み)
- ・ストロンチウム 90:検出限界値未満(検出限界値:0.48 Bq/L)

[サブドレンN6:平成 25 年 12 月 2日採取分]

- ・セシウム 134:検出限界値未満(検出限界値:0.75 Bq/L)(お知らせ済み)
- ・セシウム 137:検出限界値未満(検出限界値:0.98 Bq/L)(お知らせ済み)
- ・アンチモン 125:検出限界値未満(お知らせ済み)
- ・全ベータ:検出限界値未満(検出限界値:15 Bq/L)(お知らせ済み)
- ・トリチウム:160 Bq/L(お知らせ済み)
- ・ストロンチウム 90:検出限界値未満(検出限界値:0.45 Bq/L)

[サブドレンN7:1月 23 日採取分]

- ・セシウム 134:1.1 Bq/L(お知らせ済み)
- ・セシウム 137:2.2 Bq/L(お知らせ済み)
- ・全ベータ:検出限界値未満(検出限界値:13 Bq/L)(お知らせ済み)
- ・トリチウム:18 Bq/L(お知らせ済み)
- ・ストロンチウム 90:検出限界値未満(検出限界値:0.44 Bq/L)

[サブドレンN8:1月 14 日採取分]

- ・セシウム 134:1.3 Bq/L(お知らせ済み)
- ・セシウム 137:2.7 Bq/L(お知らせ済み)
- ・全ベータ:検出限界値未満(検出限界値:11 Bq/L)(お知らせ済み)
- ・トリチウム:55 Bq/L(お知らせ済み)
- ・ストロンチウム 90:検出限界値未満(検出限界値:0.43 Bq/L)

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・地下水観測孔 No.2-6 のサンプリングについて、セシウム 134 が前回の検出限界値未満(検出限界値:0.44 Bq/L)より上昇し 5.0 Bq/L、セシウム 137 が前回の 0.78 Bq/Lより上昇し 12 Bq/Lであることを確認。当該地下水観測孔のセシウム 134 およびセシウム 137 の分析結果は、これまで検出限界値未満か、検出限界値をわずかに超える程度であったが、今回 10 倍以上の値が確認されたことから、本日再分析を実施予定。

【地下水観測孔 No.2-6 の測定結果:2/25 採取分】

- ・セシウム 134 : 5.0 Bq/L
- ・セシウム 137 : 12 Bq/L
- ・全ベータ : 2,200 Bq/L

その他分析結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<移送関係>

- ・2,3号機東側に設置したウェルポイント(バキュームによる強制的な排水設備)からの地下水汲み上げおよび2号機タ

ービン建屋への移送を適宜実施中。

- ・H25/12/11～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No.0-3-2 でトリチウムが検出されていることから、当該観測孔からの地下水の汲み上げを試験的に適宜実施中。
- ・H26/1/29～ 1, 2号機間護岸エリア地下水観測孔 No.1-16 で高い濃度の全ベータが検出されていることから、当該観測孔近傍に設置した地下水汲み上げ用の孔(No.1-16(P))からの地下水の汲み上げを適宜実施中。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<トピックス>

- ・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。
- ・H25/10/3～ 地下貯水槽 No.1 の汚染範囲調査開始。
- ・H26/1/30～ 地下貯水槽 No.1～3 における貯水槽内部の残水について、H1 東エリアタンクへの移送を適宜実施。

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以 上